

アキレス腱 断裂



監修



日本足の外科学会

制作

久光製薬株式会社

アキレス腱断裂

症状

◆症状

スポーツ中、踏み込んだ時に「バンッ」という音と共に痛みを生じるのが典型である。「ふくらはぎを後ろから蹴られたような感じがした」などの訴えが特徴的である。高齢者では明らかな受傷機転がなく、軽い痛みと力の入りにくさを自覚するなど、非典型的な症状のこともある。

原因 病態

◆原因

好発年齢は30～40歳代である。若年では球技やラケット競技などのスポーツによる受傷が多いが、高齢では階段昇降など日常生活での受傷が多い。

◆病態

アキレス腱断裂は基盤に腱の変性が存在することが多い。腱の肥厚は退行性変化により生じるため、断裂の危険因子と考えられている。ステロイドの全身投与や局所注射、脂質異常症、高齢者におけるキノロン系の抗菌薬なども危険因子になり得る。

診断

初診時に断裂を見落とさないことが重要である。陳旧例になると治療が難しく、成績も低下する。病歴に加え、複数の検査で診断すると確実である。まれに骨折などを合併することにも注意する。

◆問診・病歴

- 典型的な断裂音の聴取は診断に有用だが、受傷機転がはっきりしないこともある。痛みが軽い場合や、歩行可能な場合も少なくないことに注意する。

◆局所所見

- つま先立ちはできなくなるが、足関節の自動底屈は可能である。
- 断裂部に陥凹を触知する。しかし、周囲の腫脹により分かりにくくなることもある。

◆徒手検査

- Simmonds-Thompson test: 腹臥位、膝屈曲位で腓腹部を握った時に、足関節が底屈しない(正常では底屈する)。
- Knee flexion test (Matles test): 腹臥位で膝を屈曲させた時に、足関節が中間位や背屈位になる(正常では軽度底屈位)。

◆画像検査

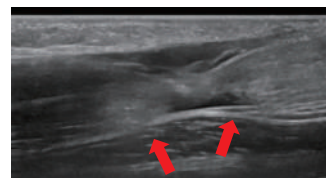
- 超音波(エコー): 簡便かつ非侵襲的な検査で非常に有用である。足関節を背屈させると、断裂部が明瞭となる。修復過程の評価にも用いられる。
- 単純X線: 断裂を直接描出するのは難しいが、高齢者では踵骨付着部での裂離骨折が起こることがあり、手術が必要な場合も多いので、検査を考慮する。
- MRI: 必須の検査ではないが、断裂部が明瞭に描出される。



Simmonds-Thompson test



Knee flexion test



超音波長軸像(→断裂した腱断端)



踵骨付着部の裂離骨折(→)